



# 平成28年上半期 決算ハイライト

---

平成28年上半期決算の概要 … 1~4p

---

平成28年上半期の開発型企業としての施策 … 5~8p

---

平成28年度通期の目標 … 9~11p

---

# 平成28年9月／連結決算の概況(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

## ●連結子会社及び持分法適用関連会社

連結対象会社		資本金	持株比率
イ.連結子会社 2社	セントラル自動車工業(株)	50百万円	76.3%
	CAPCO PTE LTD.(シンガポール)	37百万円(40万Sドル)	100.0%
ロ.持分法適用関連会社 2社	石川トヨベツト(株)	195百万円	34.2%
	エイスインターナショナルトレード(株)	30百万円	34.0%

## ●全社の業績

単位:百万円(要約)

	28年上半期予算	28年上半期実績	予算達成率(%)	27年上半期実績	対前年増減	対前年比(%)
売上高	8,500	8,880	105	7,860	1,020	113
荒利益	3,300	3,550	108	3,080	470	115
販売費及び一般管理費	2,180	2,130	98	1,980	150	108
営業利益	1,120	1,420(16.0%)	127	1,100(14.0%)	320	129
経常利益	1,290	1,650(18.6%)	128	1,280(16.3%)	370	129
親会社株主に帰属する中間純利益	880	1,150(13.0%)	131	880(11.2%)	270	131

※( )内は売上比率

## ●事業の種類別セグメント／販売実績

		28年上半期(構成比%)	27年上半期(構成比%)	対前年増減	対前年比(%)
事業全体		8,880(100)	7,860(100)	1,020	113
うち	国内販売	4,710(53)	4,040(51)	670	117
	海外販売	4,170(47)	3,820(49)	350	109

国内部門では、新たに高付加価値商材をラインアップし、幅広いニーズに対応するとともに、「3つの新規開拓」に取り組み、海外部門では、新しい販売チャネルでの取引拡大と、新設した現地法人を通じて現地密着型営業の強化を図りました。

これらにより、当社グループの平成28年上半期の業績は増収・増益となりました。

# 連結純利益

単位:百万円(切捨て)

	28年上半期	売上比(%)	27年上半期	売上比(%)	前年比増減	伸び率(%)
経常利益	1,649	18.6	1,280	16.3	369	129
特別利益	—		30	0.4	△30	
特別損失	—		26	0.4	△26	
税金等調整前中間純利益	1,649	18.6	1,284	16.3	365	129
法人税等	495	5.6	403	5.1	92	
中間純利益	1,154	13.0	881	11.2	273	131
親会社株主に帰属する中間純利益	1,154	13.0	881	11.2	273	131
1株当たり中間純利益	64円 <sup>13</sup> 銭	—	48円 <sup>88</sup> 銭	—	15円 <sup>25</sup> 銭	

## ■連結貸借対照表

	28年上半期	27年上半期	前年比増減
総資産	22,987	21,637	1,350
純資産	19,332	17,921	1,411
自己資本比率(%)	84.1	82.8	1.3
1株当たり純資産(円)	1,073.37	994.44	78.93

# 連結上半期キャッシュ・フロー計算書の概要(平成28年4月1日~平成28年9月30日)

単位:百万円(切捨て)

## ① 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前中間純利益①		1,649
非資金費用等	減価償却費	73
	のれん償却額	109
	賞与引当金の増加額	16
	退職給付に係る負債(退職給付引当金)の減少額	△32
	持分法による投資損益(△は利益)	△175
非資金費用等による資金調達②		△7
営業活動による資金	受取利息及び受取配当金	△32
	売上債権の減少額	276
	たな卸資産の増加額	△82
	仕入債務の減少額	△128
	その他	△128
営業活動による資金調達③		△94
小計(①+②+③)		1,546
その他	利息及び配当金の受取額	67
	法人税等の支払額	△699
	その他による資金調達④	△632
(A) 営業活動によるキャッシュ・フロー(①+②+③+④)		914

## ② 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動	投資有価証券の取得による支出	△305
	投資不動産の賃貸による収入	28
	短期貸付による支出	△16
	有形固定資産の取得による支出	△261
	無形固定資産の取得による支出	△68
	その他	△4
(B) 投資活動によるキャッシュ・フロー		△627

## ③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動	短期借入金の純減少額	△127
	自己株式の取得による支出	△0
	配当金の支払額	△360
	連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△124
(C) 財務活動によるキャッシュ・フロー		△613

(D) 現金及び現金同等物に係る換算差額 △5

現金及び預金の増減額(△は、減少額)(A+B+C+D) △332

現金及び預金の期首残高 (注) 8,467

現金及び預金の期末残高 (注) 8,134

(注) 現金及び預金の期首・期末残高には、3ヶ月超の定期預金800百万円を含む。

## 配当金について

- 配当政策を経営上の重要課題としている当社と致しましては、環境の変化激しい中でも開発型企业として経営の維持・発展に努め、株主の皆様には「安定かつ高配当」を継続して参りたく存じます。
- 以上の観点から、期初の配当予想では、中間・期末ともに15円でありましたが、中間配当金を昨年比3円増配の1株当たり16円とさせて頂きたく存じます。また、期末配当金につきましても、1株当たり16円とし、年間配当金を32円とさせて頂きたいと存じます。
- なお、昨年度の期末配当金20円には、創立70周年記念配当の3円が含まれております。

### 配当金の推移

単位:円

	平成17年 3月期	平成18年 3月期	平成19年 3月期	平成20年 3月期	平成21年 3月期	平成22年 3月期	平成23年 3月期	平成24年 3月期	平成25年 3月期	平成26年 3月期	平成27年 3月期	平成28年 3月期	平成29年 3月期 (案)
中間配当 1株当たり	7.5	7.5	7.5	7.5	8.0	8.5	10.0	10.0	13.0	13.0	13.0	13.0	16.0
期末配当 1株当たり	7.5	7.5	※ 10.5 (記念配当3.0円)	8.5	8.5	11.5	10.0	13.0	13.0	14.0	14.0	※ 20.0 (記念配当3.0円)	16.0 (案)
年間配当 1株当たり	15.0	15.0	※ 18.0 (記念配当3.0円)	16.0	16.5	20.0	20.0	23.0	26.0	27.0	27.0	※ 33.0 (記念配当3.0円)	32.0 (案)
配当性向	45.2%	65.1%	60.1%	50.2%	35.5%	31.5%	29.8%	33.4%	31.7%	32.2%	34.4%	35.7%	29.5% (案)

- (注) 1. ※平成19年3月期の期末配当金のうち3.0円は、60周年記念配当であります。また、平成28年3月期の期末配当金のうち3.0円は、70周年記念配当であります。  
 2. 平成29年3月期の「期末」「年間」「配当性向」数値は案。  
 3. 配当性向は、単体ベースで計算。

平成28年上半期

開発型企業としての施策





▲ガラスコーティング  
ガードコスメ



▶ガラスコーティング  
ガードコスメSP



▲CPCプレミアムコーティング  
ダブルG



▶撥水性を抑え水切れ効果を高めた  
CPCプレミアムコーティング  
ダブルGベータ



アルコール検知器「ソシファック」シリーズ▲



札幌支社

仙台支社 盛岡営業部

仙台支社

北関東支社

東日本物流センター

東京支社

金沢営業所

北関東支社 高崎営業部

大阪支社

静岡営業所

名古屋支社

西日本物流センター

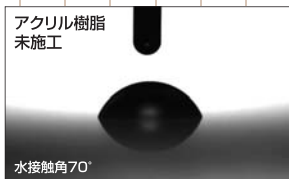
広島営業所

高松営業所

福岡支社

福岡支社 南九州営業部

▼無機防汚コーティング剤「エクセルビュア」



水接触角70°



水接触角4°

エクセルビュアは、基材の表面に超親水被膜を形成。



未施工 施工済

試験片を帯電させ、発泡スチロール球の付着度合いを確認。  
エクセルビュア施工面にはほとんど付着しません。

平成28年上半期 開発型企業としての施策 / 1

# 国内での営業活動

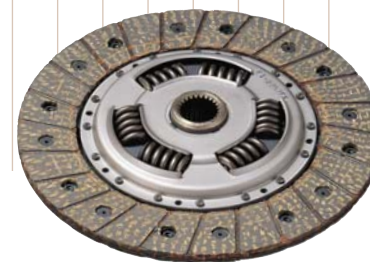
国内部門では、新たな高付加価値商材をラインアップし、幅広いユーザーニーズ、得意先ニーズに対応するとともに、地域密着型営業を更に強化し、新規取引先の開拓、新商品の開発、新しいビジネスモデルの構築に重点的に取り組みました。



▶ハイブリッド車やアイドリングストップ車のエンジンを守る効果がさらに向上したMT-10エフィ



▲MT-10スーパーリア



平成28年上半期 開発型企业としての施策 / 2

# 海外での営業活動

海外部門では、北米市場において新しい販売チャネルでの取引拡大、中国・東南アジア・中東アフリカ市場においては、新設した現地法人を通じて現地密着型営業の一層の強化に取り組みました。

現地法人 / CAPCO USA



協力会社 / 韓国CTR

本社 / 日本



現地法人 / マニラ(フィリピン)



現地法人 / ドバイ(UAE)

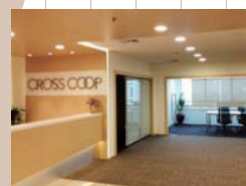


現地法人 / 広州(中国)

現地法人 / CAPCO シンガポール



海外事業所 / ジャカルタ(インドネシア)



新たに設立した海外事業所 / ヤンゴン(ミャンマー)







▲下半年より販売を開始したCPCガラスコートSP



平成28年上半期 開発型企業としての施策 / 3

## 関連会社の状況

連結子会社のセントラル自動車工業株式会社は、  
当社主力商品の1つであるCPCブランドのケミカル生産も順調に推移いたしました。



▲お得意先のセントラル生産現場見学

# 平成28年通期の目標

## ( 企業理念 )

世界のネットワークを通じて環境にやさしく、  
安全と豊かなカーライフを創造して、社会に貢献する。

## ( 基本方針 )

1. お客様の潜在ニーズを読み、期待を上回る新しい商品・サービスの開発を通じて需要を創造します。
2. 全てのお客様・お取引先様への感謝の念を忘れず、徹底したサービス体制を通じて、信頼とお役に立つ中央を目指します。
3. 役員・社員の能力と生活向上を通じて、社会的責任を果たす開発型企業を目指し、株主様には安定かつ高配当を継続いたします。

## ( 基本戦略 )

1. 常に技術革新を追究し、お客様に感動頂けるオンリーワンの「開発型企業」を目指します。
2. 経営資源を当社の強みの部門と、新しい事業開発に投下し将来の礎を築くと共に、開発型企業の基盤を強化します。
3. 徹底した現場訪問と情報収集の強化をはかり潜在ニーズの先取りをします。
4. 教育体制の充実と共に役員・社員は自己成長に努めます。

## 平成28年度通期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

単位:百万円

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益	配当予想
28年度通期目標	19,000(112%)	2,900(118%) ※売上比 15.3%	3,200(116%) ※売上比 16.8%	2,170(116%) ※売上比 11.4%	120円48銭	第2四半期末 16.0円 期末 16.0円 合計 32.0円 配当性向29.5%(単体)
27年度通期実績	16,950(105%)	2,470(113%) ※売上比 14.6%	2,760(115%) ※売上比 16.3%	1,870(121%) ※売上比 11.0%	103円71銭	

( )内%表示は、28年度通期が対27年度通期、27年度通期が対26年度通期伸率。

今後のわが国経済は、米国の追加利上げの行方と国際金融市場での影響度合い、

英国のEU離脱や中国の不良債権問題等の外部リスクが懸念され、先行き不透明ながら、

政府の経済対策の下支えも期待され、緩やかな回復基調は維持されるものと予想されます。

こうした状況下、当社グループは、開発力の強化やPB商品を含めた商品ラインアップの拡充を進め、

3つの新規開拓をさらに強化すると共に、主力商品の海外展開のスピードアップ、既存開発商品による異業種の開拓を引き続き強化し、

コスト削減のために導入した新情報システムの完全定着化に注力してまいります。

当社は創立70周年を機に、さらに当社の将来を担う若手人材の育成と早期戦力化、

教育研修を通じた社員力のアップと商品開発力の強化を図り、新しい需要の創造を目標に、

社会貢献を誇りとする開発型企业として株主の皆様のご期待にお応えする所存でございますので、

何卒一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。